２０２５年度事業報告

（１）学術集会および会務

Ａ）学術集会

１．第７３回総会（２０２５年5月８日～１０日）

会場：パシフィコ横浜ノース

会長：川名明彦（防衛医科大学校内科学講座（感染症・呼吸器））

２．第７２回東日本支部総会（２０２５年9月２４日～２６日）

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

会長：菊地利明（新潟大学大学院医歯学総合研究科呼吸器・感染症内科学分野）

３．第７３回西日本支部総会（２０２５年１１月２８日～３０日）

会場：福岡国際会議場

会長：髙田　徹（福岡大学病院感染制御部/医学部腫瘍・血液・感染症内科学）

４．関連国際学会として

20th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection（APCCMI 2025）

２０２５年１１月２日～４日（タイ・バンコク）

Ｂ）会務

１．正会員数　７，７７１名

賛助会員数　１９団体、団体会員数　７５団体

２．２０２５年度評議員会は２０２５年5月９日に、同定期総会は5月９日にパシフィコ横浜ノースで開催された。

３．新評議員（２０２５年4月～２０２６年3月）

東日本支部２３名（現在　２０６名）

阿部　修一（山形県立中央病院感染症内科・感染対策部）
五十嵐裕貴（慶應義塾大学薬学部薬効解析学講座）
石郷　友之（札幌医科大学附属病院薬剤部）
伊部　裕太（札幌医科大学附属病院薬剤部）
遠藤　愛樹（山梨県立中央病院薬剤部）
具　　芳明（東京科学大学大学院医歯学総合研究科統合臨床感染症学分野）
笹野　　央（順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター薬剤科）
佐藤　　匠（東北医科薬科大学大学院薬学研究科臨床感染症学教室）
鈴木　絢子（北里大学薬学部薬物動態学）
髙田　啓介（横浜総合病院薬剤部）
田村　未来（船橋市立医療センター薬剤局）
寺田　教彦（筑波メディカルセンター病院感染症内科）
長澤　耕男（千葉大学医学部附属病院小児科）
中島　寿久（国立がん研究センター中央病院薬剤部）
並木　孝哉（東京ベイ浦安市川医療センター薬剤室）

南宮　　湖（慶應義塾大学医学部感染症学教室）
細川　直登（亀田総合病院感染症科／臨床検査科／地域感染症疫学・予防センター）
三星　　知（下越病院薬剤課）
森　　伸晃（昭和医科大学医学部内科学講座臨床感染症学部門）

西日本支部４名（現在　１９１名）
井本　和紀（大阪公立大学大学院医学研究科臨床感染制御学）
柿内　聡志（長崎大学病院総合感染症科感染制御教育センター）
酒巻　一平（福井大学医学部感染症学講座）
島　　久登（亀井病院腎臓・高血圧内科）

４．理事会５回開催

２０２５年４月、７月、９月、１２月、２０２６年２月

Ｃ）事業報告

１．編集委員会

１）日本化学療法学会雑誌　（委員長　荒岡秀樹）

・編集委員会　６回開催
・編集状況
　２０２５年　第７３巻３号～６号
　一般誌　　４冊（掲載論文数１７編）
　２０２６年　第７４巻１号～２号
　一般誌　　２冊　（掲載論文数１４編）
・各総会の一般演題の中から編集委員会推薦の演題を選び、推薦論文の依頼を行った。
・投稿規程の改訂を行い、オンライン投稿・審査システム（Editorial Manager®）を導入した。
・J-STAGEを導入し、バックナンバーの移行を開始した。

２）Journal of Infection and Chemotherapy（委員長　泉川公一）

・編集状況
　２０２５年
　Vol. ３１　No.４～１２（掲載論文数　２３７編）
　２０２６年
　Vol. ３２　No.１～３（掲載論文数　６２編）
・JIC Award受賞
　Koki Takeda, Akira Okada, Shoji Sera, Teruki Oishi, Naomi Nagai,
　「Efficacy and safety of a low-dose sulfamethoxazole/trimethoprim regimen in preventing pneumocystis pneumonia: A retrospective study using a large-scale electronic medical record database」（Vol. 31 No. 2, 2025）
・Reviewer of the Yearの選考を行い、下記の3名が受賞した。
　前田　真之（昭和医科大学薬学部臨床薬学講座感染制御薬学部門）

市原　浩司（札幌中央病院泌尿器科）
岩永　直樹（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学分野）

・第73回日本化学療法学会総会において、特別企画3「学会誌の活性化に向けて―現状と課題―」「Journal of Infection and Chemotherapy 誌編集長の立場から」として講演し、活性化に向けた取組について周知を図った。
・2026年1月より、オープンアクセス出版にかかるArticle Publishing Charge (APC)を、2,650ドルから3,000ドルへ改定した。

３）用語委員会（委員長　重村克巳）

厚生労働省からの依頼を受け「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」第11回改訂版（ICD-11）の和訳作業に協力し、当学会が関連する用語を確認、一部修正を推奨および依頼した。

２．学術委員会（委員長　浜田幸宏）

・研究費の獲得が厳しくなっていることから、2027 年の創立 75 周年に向けて 2 年計画で臨床研究支援事業を企画することになり、公募を行い、研究助成金を支給した。また同様に 2 年計画で海外留学補助制度の申請を行ったが、2025 年度の応募は無かった。
・学術奨励賞受賞者

第 73 回学術集会

基礎部門

Chimaobi Ugbanu Peter（富山大学学術研究部医学系微生物学講座）
「Dietary Modulation of Gut Microbiota: Lactose-Mediated Enterococcus Proliferation Promotes Persistent Colonization of Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae」

臨床部門

森本　紳一（福岡大学医学部救急救命医学講座）
「重症 COVID-19 における集中治療後症候群の有病率と危険因子の検討
－単施設前向き観察研究－」

日本化学療法学会雑誌　第 73 巻 6 号　p.572-576, 2025

牧田　亮（岐阜県総合医療センター薬剤部）
「Gentamicin を用いた持続局所抗菌薬灌流において急性腎不全発症にかかわる血中薬物濃度のカットオフ値の検証」

Journal of Infection and Chemotherapy　Vol.31（8）Article 102766, 2025

梨本　俊亮（北海道大学大学院薬学研究院　薬物動態解析学研究室）
「Optimization of voriconazole dosage via population pharmacokinetic analysis based on the albumin-bilirubin (ALBI) score of patients with liver dysfunction」

３．学会賞選考委員会（委員長　掛屋　弘）

志賀・秦賞、Young Challenger Award および新規創設の感染症フロンティアリサーチ賞の選考を行った。

・志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：舘田一博（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）

研究テーマ：マクロライド剤の緑膿菌 Quorum-Sensing 機構に対する抑制効果

・Young Challenger Award

受賞者：伊部　裕太（札幌医科大学附属病院薬剤部）

研究テーマ：救急・集中治療領域における抗菌薬適正使用に関する研究

受賞者：並木　孝哉（東京ベイ浦安市川医療センター薬剤室）

研究テーマ：多剤耐性菌への抗菌薬最適化～セフメタゾールおよびバンコマイシンの有効性・安全性のトランスレーショナルリサーチ～

受賞者：沢田　佳祐（枚方公済病院薬剤部）

研究テーマ：資源の限られた中小病院における薬剤師協働型抗菌薬適正使用プログラム（ASP）実践モデルの確立と地域への展開：定量的・質的評価

受賞者：金坂伊須萌（東邦大学看護学部感染制御学）

研究テーマ：淋菌治療失敗に関与する tolerance 表現型の新規病態メカニズムの解明と診断および治療戦略への応用

受賞者：川筋　仁史（富山大学学術研究部医学系感染症学講座）

研究テーマ：唾液中薬物濃度モニタリング（STDM）による個別化投与法の確立と臨床実装への展開

・感染症フロンティアリサーチ賞

受賞者：犬飼　達也（東京医科大学微生物学分野）

研究テーマ：Fungus-targeted nanomicelles enable microRNA delivery for suppression of virulence in Aspergillus fumigatus as a novel antifungal approach

受賞者：郭　悠（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター感染症内科）

研究テーマ：Virological characteristics of the SARS-CoV-2 KP.3.1.1 variant

受賞者：髙園　貴弘（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科臨床感染症学分野）

研究テーマ：Development of a score model to predict long-term

４．国際渉外委員会（委員長　大毛宏喜）

・2025年11月2日～4日にバンコク（タイ）The 20th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection（APCCMI 2025）が開催された。

・2025年9月4日～5日にアテネ（ギリシャ）で国際化学療法学会（ISAC）戦略会議が開催され、柳原克紀理事が出席した。

５．プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会（委員長　森永芳智）

委員会においてプロバイオティクス製剤の使用状況に関するアンケート調査の解析を行った。

６．抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長　堀野哲也）

・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

年次テーマ：ショック

第 74 回　2025 年 5 月 10 日（土）パシフィコ横浜ノース

第 75 回　2025 年 8 月 30 日（土）東京国際フォーラム

第 76 回　2025 年 9 月 24 日（水）朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

第 77 回　2025 年 11 月 28 日（金）福岡国際会議場

・第 75 回セミナーの映像を収録し、e-learning を実施した。

・委員会を数回開催した。

・2025 年 11 月 22 日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施した。

・認定医・認定歯科医師の新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。

・2026 年 1 月 1 日付けで認定証を発行した。

７．抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長　木村利美）

・第 30 回講習会は日本環境感染学会総会にあわせて 2025 年 7 月 13 日（金）にパシフィコ横浜ノースで開催し、第 31 回講習会は日本医療薬学会年会にあわせて 2025 年 11 月 23 日（日）に神戸ポートピアホテルで開催した。

・認定薬剤師試験を 2025 年 1 月 26 日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで実施した。

・2026 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定した。

８．外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会（委員長　藤村　茂）

・認定試験問題の追加作題およびブラッシュアップを実施した。

・外来抗感染症薬認定薬剤師試験を 2025 年 12 月 14 日（日）に実施した。

・2026 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定した。

・e ラーニング用動画コンテンツを制作し、動画は医学アカデミーのシステム「ためとこ」の教材として、運用することになった。

９．AST育成プログラムワーキンググループ（委員長　北原隆志）

下記のAST講習会をWebで開催した。

・第8回AST講習会（2025年12月9日）

「AST の「今」をアップデートする：診断・治療戦略・副作用マネジメントの最前線」

Webinar登録人数　375名

（医師23名、歯科医師2名、薬剤師204名、臨床検査技師6名、看護師4名、その他3名）

・第9回AST講習会（2026年2月9日）

「グラム陰性薬剤耐性菌治療と、耐性菌を増やさないための知識を深める」

Webinar登録人数493名

（医師92名、歯科医師7名、薬剤師326名、臨床検査技師44名、看護師14名、その他10名）

10. 四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長　髙橋　聡）

1）第 10 回（2018 年）

・歯科口腔外科領域（2 回目）

全国 21 施設から収集した 515 株の感受性測定結果について JIC に投稿し、2025 年 Vol. 31（7）に掲載された。

2）第 12 回（2020 年）

・耳鼻科領域感染症（3 回目：41 薬剤・目標 1000 株）

全国 37 施設から収集した 377 株の感受性測定結果について JIC に投稿した。

3）第 13 回（2021 年）

・尿道炎（淋菌）（4 回目：10 薬剤・目標 1200 症例）

札幌医科大学が経年的に実施しているサーベイランスで、全国 55 施設から収集された 1,068 株の感受性測定結果について JIC に投稿し、2025 年 Vol. 31（12）に掲載された。

・小児科領域感染症（2 回目：32 薬剤・目標 1,000 株）

全国 18 施設から収集した 1,498 株の感受性測定結果を 2025 年 5 月の感染症学会/化学療法学会の合同学会で発表し、2026 年 2 月の臨床微生物学会でも発表した。また、JIC に論文を投稿し、2025 年 Vol. 31（10）に掲載された。

4）第 14 回（2022 年）

・呼吸器感染症（10 回目：目標 1,100 株、43 薬剤）

全国 28 施設より収集した 1,057 株の感受性測定結果を JIC に投稿し、2025 年 Vol. 31（10）に掲載された。

・手術部位感染症(SSI)（4 回目：目標 1,000 例、44 薬剤）

全国 18 施設より収集した 855 株の感受性測定結果を 2025 年 1 月の臨床微生物学会および 5 月の感染症学会／化学療法学会の合同学会で発表した。

また、JIC に論文を投稿し、2025 年 Vol. 31（9）に掲載された。

5）第 15 回（2023 年）

・歯科・口腔外科領域

（3 回目：*Streptococcus* spp. 32 薬剤、嫌気性菌調査薬剤 19 薬剤、目標 400 株）

全国 23 施設で収集した菌株の感受性測定を実施し、現在報告書を作成している。

・*Clostridioides(Clostridium) difficile* 感染症（第 1 回：5 薬剤、目標 200 株）

全国 10 施設にて下痢患者より分離された 106 株の薬剤感受性測定および遺伝

子解析が終了した。

6）第 16 回（2024 年）

・皮膚科（3 回目：目標 1,000 株、34 薬剤）

全国 40 施設で検体収集を 2025 年 10 月末で終了し、感受性測定を開始した。

・産婦人科（1 回：200 株、64 薬剤）

全国 15 施設で菌株収集を行っている。

7）第 17 回（2025 年）

・単純性膀胱炎（4 回目：19 薬剤、目標 400 症例）

全国 35 施設で 2026 年 12 月まで検体を収集している。

・複雑性尿路感染症（4 回目：39 薬剤、目標 800 株）

全国 37 施設で 2026 年 12 月まで菌株を収集する予定である。

・小児科領域感染症（2 回目：百日咳菌）：17 薬剤・目標 100 株

COVID-19 の流行後、国内での患者が激減し、2021 年実施のサーベイランスでは、百日咳の菌株収集が出来なかった為、世界的な流行にあわせて再度、実施することになり、2025 年 4 月から全国 24 施設で実施している。

11. 真菌サーベイランス委員会（委員長　掛屋　弘）

4 施設で抗真菌薬感受性サーベイランスの倫理審査が承認され、144 株を感受性測定機関の千葉大学へ送付した。現在、順次薬剤感受性試験を実施している。

更に、追加の参加施設を検討した結果、31 施設より参加の意向が示され、一括倫理審査の手続きを進めている。

12. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長　宮下修行）

レジオネラ治療薬評価委員会の推進に向け、委員の見直しを行った。

13. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長　國島広之）

Clostridioides difficile 感染症診療ガイドライン第 3 版に向けて改訂作業を行った。

14. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長　大毛宏喜）

JAID/JSC 感染症治療ガイドライン―呼吸器感染症―の改訂作業を行い、公開に向けて呼吸器感染症 WG で原稿の確認を行った。

15. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長　木村利美）

・バンコマイシン TDM ソフトウェア PAT を継続したデータ集積を踏まえて新たなバンコマイシンの小児用の薬物モデルを構築し、ver.4.0 から ver. 4.1 に更新した。さらに、他の抗微生物薬を含めてより詳細に解析ができるように新しく開発した PATpro ver 1.0 を公開した。

・先発品／後発品を問わず Meropenem 全体の適正使用推進に貢献することを目的に、住友ファーマ株式会社が開発したメロペネム PK-PD シミュレーション解析ソフト「Meropenem ヒト血中濃度シミュレーション＆Time above MIC 計算ソフト ver 1.0」を無償利用許諾の下、本学会へ無償提供され、本学会のホームページにて公開準備中である。

16. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会
（委員長　三鴨廣繁）

・術後感染症予防抗菌薬ガイドラインについて、会員からの問い合わせに回答した。
・転載許諾申請の確認を行った。術後感染症予防抗菌薬ガイドラインについて会員からの質問に回答した。

17. 薬剤耐性（AMR）治療ガイダンス作成委員会（委員長　柳原克紀）

・薬剤耐性（AMR）治療ガイダンスの公開に向け、原稿の読み合わせを実施するとともに、パブリックコメントを募集し、発行に向けた校正作業を行った。
・第 73 回総会および第 73 回西日本支部総会で、薬剤耐性（AMR）治療ガイダンスに関する委員会報告を行った。

18. 淋菌感染症アドホック委員会（委員長　三鴨廣繁）

第73回総会において男性尿道炎患者より分離された淋菌に対する各種抗菌薬の感受性測定の委員会報告を行った。

19. AWaRe分類と病院の特性調査アドホック委員会（委員長　髙橋　聡）

抗菌薬の適正使用に努めている場合であっても、 AWaRe 分類の評価は診療体制の違いなど病院の特性により影響を受ける可能性があるため、この実態を明らかにし、わが国における課題を整理することを目的として、アドホック委員会を設置し、調査法の検討を行った。

20. Key Drug選定ワーキンググループ（委員長　石和田稔彦）

厚生労働省からの依頼を受けて検討した「安定確保医薬品の見直しに係る候補成分の提案」について、更なる絞り込みの依頼があり再度、委員会で検討した。

21. OPATワーキンググループ（委員長　馳　亮太）

OPAT で使用する抗菌薬の持続静注投与について、「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に薬事承認の要望を申請するための準備を行った。

22. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長　川口辰哉）

第73回総会のシンポジウム6において、「抗菌薬適正使用支援プログラム（ASP）実践のためのガイダンス」について報告し、啓発活動を行った。

23. ７学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長　舘田一博）

・10月15日に委員会を開催し、抗菌治療薬としてのファージ開発難治性感染症に対する新たな治療戦略の探索および抗菌治療薬としてのファージ開発について、情報共有を行った。
・12月10日に委員会を開催し、米国で実際に進められているファージ療法の臨床治験について、情報共有を行った。
・2月5日に委員会を開催し、政府による抗感染症薬促進の動向および日本における抗菌創薬の現状・課題・解決策について、情報共有を行った。
・2026年度に発出予定の感染症治療薬の創薬促進に向けた提言の基本方針を取り

まとめた。

24. **外来抗菌薬適正使用調査委員会（委員長　大曲貴夫）**

全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関する第4回アンケート調査結果を纏め、解析した。

25. **3学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長　平松和史）**

TFLX、PZFX 1000mg、SBT/ABPC 3g（1日2回投与）、TAZ/PIPC 4.5g（1日2回投与）のブレイクポイントについて検討を行った。

26. **3学会合同呼吸器感染症予防促進委員会（委員長　迎　　寛）**

日本呼吸器学会および日本感染症学会と合同で、9月28日にWeb講演会「なくそう、ふせごう呼吸器感染症」を開催した。

27. **学術集会開催支援ワーキング（委員長　安田　満）**

2026年および2027年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

28. **利益相反委員会（委員長　重村克巳）**

効率化の為、利益相反自己申告（COI）システムを導入した。

29. **インフェクションコントロールドクター (ICD)制度**

2025 年 12 月　認定者 17 名

（２）２０２５年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

２０２６年度事業計画

（１）学術集会および会務

Ａ）学術集会

１．第７４回総会（２０２６年５月２２日～２４日）

会場：東京国際フォーラム

会長：栁原　克紀（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
病態解析・診断学分野（臨床検査医学））

２．第７３回東日本支部総会（２０２６年１０月２８日～３０日）

会場：東京ドームホテル

会長：石和田稔彦（千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野）

３．第７４回西日本支部総会（２０２６年１２月１８日～２０日）

会場：高知県立県民文化ホールおよびザ　クラウンパレス新阪急高知

会長：山岸　由佳（高知大学医学部臨床感染症学講座）

４．関連国際学会として

34th International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)
２０２６年１１月９日～１２日（フィリピン）

Ｂ）会務

１．理事会、評議員会の開催について

理事会　年６回、評議員会　年１回を予定

２．関連団体への対応

日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

Ｃ）事業計画

１．編集委員会

１）日本化学療法学会雑誌

・6冊発行予定（第74巻3～6号、第75巻1～2号）

・編集委員会を６回開催する。

・J-STAGEへバックナンバーの移行を完了する予定である。

２）Journal of Infection and Chemotherapy

・電子版12号を発刊する予定。

・編集委員会を数回、開催する。

・JIC AwardおよびReviewer of the Yearを選考する。

・第74回総会で、論文査読者向けの講演を行い、査読者の育成を行う予定である。

３）用語委員会

必要があれば適宜、対応していく予定である。

２．学術委員会

学術奨励賞、臨床研究支援助成および海外留学補助制度について、選考を実施する予定である。

３．学会賞選考委員会

志賀・秦賞および Young Challenger Award、感染症フロンティアリサーチ賞の選考を行う予定である。

４．国際渉外委員会

2026 年 11 月 9 日～12 日に（フィリピン）で 34th International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)が開催される予定である。

５．薬剤感受性検査法検討委員会（委員長　荒岡秀樹）

3 学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会と連携し、日本で直近上市されたβ-lactam/β-lactamase inhibitor や cefiderocol などの臨床的ブレイクポイントの設定について検討する。

６．プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会

・プロバイオティクス製剤の使用状況に関するアンケート調査についての委員会報告を和文誌に掲載する予定である。
・前回アンケートを踏まえ、第 2 回アンケート調査を行う予定である。
・第 74 回総会でシンポジウム「プロバイオティクス製剤：適正使用のための製剤学的知見と臨床の現在」を行う予定である。

７．抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

１）抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

年次テーマ：AMR 時代の抗菌薬適正使用

第 78 回　2026 年 5 月 22 日（金）パシフィコ横浜ノース
第 79 回　2026 年 8 月 29 日（土）東京国際フォーラム
第 80 回　2026 年 10 月 28 日（水）東京ドームホテル
第 81 回　2026 年 12 月 18 日（金）～2026 年 12 月 20 日（日）のいずれかを予定
高知県立県民文化ホール または ザ　クラウンパレス新阪急高知

※第 79 回は収録し、後日、e-learning を実施する予定である。

２）抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

・10 月末　指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。
・11 月 28 日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する予定である。
・2027 年 1 月 1 日付けで認定する。

上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催する予定である。

８．抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

・第32回講習会は日本環境感染学会総会に合わせて2026年7月11日（土）に横浜で開催する予定であり、第33回講習会は日本医療薬学会年会に合わせて2026年11

月22日（日）に神戸にて開催する予定である。

・2027年1月31日（日）に認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。

・2027年3月1日付けで認定証を発行する予定である。

９．外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会

・委員全員で外来抗感染症薬認定薬剤師試験の問題作成を行う予定である。

・外来抗感染症薬認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。

・2027年3月1日付けで認定証を発行する予定である。

10. AST育成プログラムワーキンググループ

年 2 回の AST 講習会を Web で開催する予定である。

11. 四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1）第 15 回（2023 年）

・歯科・口腔外科領域

（3 回目：*Streptococcus* spp. 32 薬剤、嫌気性菌調査薬剤 19 薬剤、目標 400 株）

全国 23 施設で収集した菌株の感受性測定結果を 2027 年 2 月に開催される日本臨床微生物学会で報告する予定である。

・*Clostridioides(Clostridium) difficile* 感染症（第 1 回：5 薬剤、目標 200 株）

全国 10 施設にて下痢患者より分離された 106 株の測定結果を 7 月の日本環境感染学会および 2027 年 2 月の日本臨床微生物学会で報告する予定である。

2）第 16 回（2024 年）

・皮膚科（3 回目：目標 1,000 株、34 薬剤）

全国 40 施設で収集した菌株の感受性測定結果を 2027 年 2 月に開催される日本臨床微生物学会で報告する予定である。

・産婦人科（1 回：200 株、64 薬剤）

全国 15 施設で 2026 年 8 月まで菌株収集を行い、感受性測定を行う予定である。

3）第 17 回（2025 年）

・単純性膀胱炎（4 回目：19 薬剤、目標 400 症例）

全国 35 施設で 2026 年 12 月まで検体を収集し、感受性測定を行う予定である。

・複雑性尿路感染症（4 回目：39 薬剤、目標 800 株）

全国 37 施設で 2026 年 12 月まで菌株を収集し、感受性測定を行う予定である。

・小児科領域感染症（2 回目：百日咳菌）：17 薬剤・目標 100 株

全国 24 施設で目標の 100 株まで菌株収集を実施する予定である。

4）第 18 回（2026 年）

・呼吸器感染症（11 回目）

全国で菌株収集を実施する予定である。

・耳鼻咽喉科領域感染症（13 回目）

全国で菌株収集を実施する予定である。

5）ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートする予定である。

12. 真菌サーベイランス委員会

一括倫理審査の承認後が得られ次第、追加の 31 施設（計 35 施設）から菌株を収集し、感受性検査および解析を行う予定である（予測菌株数：約 1,000 株）。

13. レジオネラ治療薬評価検討委員会

レジオネラ治療薬評価委員会で作成したレジオネラ診断予測スコアの検証研究の継続事業および国内分離レジオネラ属菌の分子疫学解析および包括的ゲノムデータベースの構築に関する研究を実施する予定である。

14. CDI診療ガイドライン作成委員会

引き続き *Clostridioides difficile* 感染症診療ガイドライン第 3 版に向けて改訂作業を行う予定である。

15. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

JAID/JSC 感染症治療ガイドライン―呼吸器感染症―の改訂版を公開する予定である。

16. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

・「抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022」改訂に向けて作業を行う予定である。
・バンコマイシンの大規模 TDM データによる母集団薬物動態モデルの研究成果をまとめる予定である。
・バンコマイシン以外の抗菌薬の TDM を支援するソフトウェア PATpro で得られるデータを分析する予定である。

17. 術後感染症予防抗菌薬ガイドライン作成委員会

会員からの問い合わせがあれば回答する予定である。また委員会で改訂版の作成準備をする予定である。

18. 薬剤耐性（AMR）治療ガイダンス作成委員会

・薬剤耐性（AMR）治療ガイダンスを公表する予定である。
・第 74 回総会で、薬剤耐性（AMR）治療ガイダンスに関する委員会企画のシンポジウムを行い、発表する予定である。

19. 淋菌感染症アドホック委員会

第 73 回総会において発表した「男性尿道炎患者より分離された淋菌に対する各種抗菌薬の感受性測定」の論文化を行う予定である。

20. AWaRe 分類と病院の特性調査アドホック委員会

AWaRe分類に関して、調査を実施する予定である。

21. Key Drug選定ワーキンググループ

今後の抗菌薬の供給状況なども踏まえて臨床における評価を適宜見直す予定である。

22. OPATワーキンググループ

・OPAT で使用する抗菌薬の持続静注投与について、「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に薬事承認の要望書を提出する予定である。

・薬事承認後に、OPAT に使用する携帯型ディスポーザブルポンプの保険収載について、診療報酬改定での保険点数算定を目指す予定である。

・OPAT が不適切に実施されないようにするための施設基準の設定やガイドライン作成などに向けた準備を行う予定である。

23. ７学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会

感染症治療薬の創薬促進に向けた提言を発出する予定である。

24. 外来抗菌薬適正使用調査委員会

・第 74 回総会にて、全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関する第 4 回アンケート調査結果について、委員会報告を行う予定である。

・全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関する第 5 回アンケート調査について、内容を協議し、実施する予定である。

25. ３学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

PZFX(1g)、SBT/ABPC(3g)、TAZ/PIPC(4.5g)のブレイクポイントについて決定し、公開する予定である。

26. ３学会合同呼吸器感染症予防促進委員会

呼吸器感染症予防週間に3学会合同で啓発活動を行う予定である。

27. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

28. 社会保険委員会（委員長　渡邉　学）

要望があれば適宜、対応していく予定である。

29. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

30. 倫理委員会（委員長　志馬伸朗）

要望があれば適宜、対応していく予定である。

31. インフェクションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：２０２６年１０月３１日